

## 令和5年度奈良県環境審議会水質部会（第1回） 議事録

日時 令和6年1月22日（月）  
10:00～11:00  
場所 奈良県経済倶楽部 4階会議室

・事務局から資料について説明

・質疑応答

◎岸本委員

淀川水系は昨年度12回測定をされた結果、水質が少し良かったという説明があったかと思いますが、資料2の表8淀川水系のデータは水系平均で1.1mg/Lとありますが、この1.1mg/Lは12回の測定を用いて評価した値という理解でよろしいでしょうか。

□事務局

通常の年4回の測定計画の値で評価しております。

◎岸本委員

なるほど。それ以外で増やして計12回測定で評価してみると、より水質が良くなったという理解でよろしいでしょうか。

□事務局

はい、その通りです。

◎岸本委員

地下水の方で硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の超過、鉛やヒ素の超過もございしますが、硝酸性窒素の継続監視調査については橿原市や五條市は昨年度から高い値が出ていますので、周辺に農地由来のような汚染源があるのではないかという理解でよろしいでしょうか。

□事務局

そのように考えております。

◎岸本委員

河合町のヒ素の超過ですが、周辺にヒ素を使っているところはおそらくないと思いますが、これについて推定される原因はありますか。

□事務局

河合町のこの地点は、昔からヒ素の超過が出ている場所ですが、原因の特定には至っておりません。

◎岸本委員

ヒ素やフッ素は地質由来で出てくる場合があります。地質由来であると毎年測定しても改善することはあり得ないので、場合によっては周辺の地質の調査などをされて、地質由来だということが明確に示せた場合には、数年に 1 回のローリング調査に移行させるなど効率化を図っても良いのかと思いますので、何かの機会に是非調査をされてはどうかと思いました。

□事務局

ありがとうございます。検討させていただきます。

◎惣田部会長

他にいかがでしょうか。

◎中崎委員

新宮川水系ですが、ご存じのように過疎化で人口が減少しています。人口の減少はつらいことですが、今後河川に流入する生活雑排水を中心として汚れた水が減ってくるので、水質の数値は良い方向に向かっていくのではないかと思います。

◎惣田部会長

新宮川についてコメントをいただきましたが他にいかがでしょうか。

それでは私から。資料 2 の表 2 で、大和川の C 類型で BOD が 5mg/L を超えている地点があったということですが、BOD の最大値はどのくらいですか。また人口が減っているところもありますが動物由来の大腸菌などが検出されている事例はありますか。

□事務局

令和 4 年度の大和川の C 類型で超過している地点が岡崎川流末と弋鳥橋でした。年間の BOD 測定値をみますと最も高い場合、岡崎川流末では 7.0mg/L、弋鳥橋では 6.5mg/L でした。

◎惣田部会長

数値として 10mg/L を下回っていればそんなに大したことはないと思います。大腸菌でどこか沢山出たような地点はありましたか。人為由来だけではなく動物由来の汚れがもしかしたらあるかと思いましたので。

□事務局

今データを持ち合わせておらず、後ほど確認させていただきます。

◎惣田部会長

わかりました。現況だけではなく、計画についても何か他にご質問ありますか。

要監視項目の PFOS・PFOA について、資料 4 別添で付けていただけていますが、今年度の検出状況について説明いただけますか。PFOS・PFOA については今すごく注目されていて、一部報道もあったと思います。

□事務局

速報値ですが、今年度は 27 地点で測定しております。超過している地点が寺川の立石橋と富雄川の芝になります。PFOS よりも PFOA の方が高い傾向があります。製造禁止になった時期が、PFOS 平成 22 年に対し PFOA 令和 3 年ですので、PFOA の影響が大きいようです。

◎惣田部会長

PFOS・PFOA は用途も多様化していますが、汚染の由来などはわからないですか。

□事務局

米軍基地からの流出などが明らかになっていますが、それ以外では普段の生活で使う防水スプレー等にも使われており、関連工場もないため生活由来ではないかと考えています。

◎惣田部会長

そのような状況ですので、来年度の計画でも測定を実施していただきたいと思います。他にご質問いかがでしょうか。

本日 WEB 出席をされている児玉委員はいかがでしょうか。

◎児玉委員

特にありませんので、この計画で進めていただきたいと思います。

◎惣田部会長

測定計画の関連で、去年7月に生駒市内の河川で入浴剤の原料の流れる事案がありましたが、当時の状況について簡単に説明いただけますか。

□事務局

7月の上旬、早朝に住民から生駒市内を流れるモチ川で河川が緑色になっているという通報がありました。河川が緑色になることはよくあることですが、現場からの情報では非常に鮮やかな、いかにも人工的な緑色で、結論としては入浴剤の原料で使われるフルオレセインナトリウム、通称ウラニンと呼ばれている物質が原因でした。

原因者が分からず、事故なのか投棄なのかも不明ですが、粉末状のものが現場に残っていたのでこれが河川に流れたものと思われま。影響も大きく本川の近いところまで達していてニュースで取り上げられました。午前9時ごろに簡易調査で有害物質は出ていないということが分かっており、検体を採取して景観・環境総合センターの分析部門で結果が出たのが早く、午後2時ごろにはフルオレセインナトリウムだと分かって人体には影響がないということで、落ち着いております。

◎惣田部会長

測定計画にないにもかかわらず、研究部門は迅速に対応いただいているということで良かったと思います。

他にご質問いかがでしょうか。ないようでしたらこの計画を部会として了承する旨環境審議会の委員の皆様へ報告することといたします。

以上をもちまして議事を終了させていただきます。進行に御協力いただきありがとうございます。事務局の方にお返しいたします。